

土曜日



真剣に色を塗る子どもを見守るおとなたち

美術館や博物館へ冒険に出かけよう！子どももおとなも楽しみながら学べる、東京都美術館での「あいうえのスペシャル」におじゃましました。

(染矢ゆう子)

東京都台東区の上野公園には美術館や博物館、動物園、図書館、大学など多くの文化施設があります。学校団体や親子が活用することができるよう、「ミュージアム・デビュー」を応援するプロジェクトが「Museum Start あいうえの」です。

「道具」をゲット どこに行こうか

参加すると冒険の道具「ミュージアム・スタート・バック」がもらえ、中にはミュージアムでの冒険の記録をつくることのできる「ビビハドトカダブック」が入っています。バックを持って施設に出かけて受付などで「ブック」を見せ、施設の頭文字をとった呪文「ビビハドトカダブ」を唱えると、「冒険の証」としてオリジナルバックを手に入れることができます。

2016年12月中旬、「あいうえの」に参加したことがある100組以上の親子が、東京都美術

# 美術館・博物館でさあ冒険

東京・上野の「Museum Start あいうえの」



缶バッジを作って喜ぶりょうくん

館に集まり、この日だけの「冒険の証」作りをしました。

まず、会場内の大きな地図の前でどこに冒険に行くかを決めます。

「あいうえの」では東京都美術館と東京芸術大学の連携事業「とびらプロジェクト」に所属する「アート・コミュニケーションタ」(愛称・とびら)たちが、冒険を手助けしてくれます。「動物園かな、図書館がいいかな」。

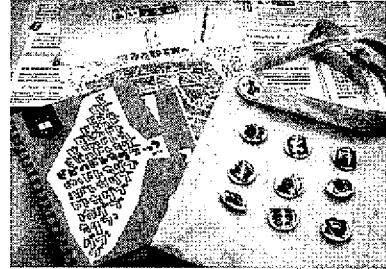
小学1年生の女の子が、迷っていました。とびらが同美術館で開催中の無料の展覧会を教えてくださいました。

ゴッホの絵見て色を塗ったら…

3週間前に「ビビハドトカダブック」をもらい、「ゴッホとゴーギャン」展を家族で見た東京都葛飾区のりょうくん(小1)。チラシを見ながら、ゴッホが描いたゴーギャンの椅子を描きま

す。「色の塗り方がおもしろいなあと思って」。

「ビビハドトカダブック」(左)とバックをつくられる絵



薄い青や濃い青のペンと絵の色を照らし合わせて塗っていきました。

父親の敏さん(40)は「ゴッホの絵をよく見ていて驚きます。家でもゴッホをまねてスケッチブックいっぱい大きな絵を描いています。美術館に行くことがなかった私にとってもいい機会です」と話しました。

1時間かけて冒険の記録を描いた後、今日だけのオリジナル缶バッジ作りにとりかかりました。

「あいうえの」プロジェクト・オフィサーの渡辺祐子さん(29)が、ゴッホとゴーギャンの絵が5点ずつ載った展覧会のシニアガイドを見せながら「好きな作品を選んでね」と話します。りょうくんは展覧会の図録から



稲庭さん

ゴーギャンの《ポンルヴァンの木陰の母と子》を選びます。

緑だけでなく、白、赤、黄、青も使っていることを見つけてました。渡辺さんは「たくさんの色を発見してくれたね。発見した色を自分で作って、缶バッジを作ろう」と、パレットに絵の具を5mmくらい出すことや、淡い色に濃い色を少しずつ混ぜて色を作ることを見せてくれました。

それぞれの色を小さな形に切って組み合わせ完成。他のコーナーで「ブック」の表紙も飾り付けました。

「ブック」に布で作った葉の形のしおりをつけていた、のぞみさん(小6)。ページは冒険の記録でほとんどうまっています。「家に帰ってからもらってきたチラシを見て描くことで、思い出してよく考えることができます」

東京都美術館アート・コミュニケーション担当係長の稲庭彩和子さんは話します。「美術館や博物館は多くの人が誰かに伝えたいと思って大事にしてきたものを展示しています。すべての子どもたちに美術館・博物館での出会いがあるようにしていきたいです」